

## 「地域防災計画(原子力防災計画編)」素案に係わるご意見への回答

総務課原子力防災対策グループ

「地域防災計画(原子力防災計画編)」素案に係わるご意見募集を平成25年3月11日から3月24日まで実施した結果、1件のご意見があり、回答を分かり易くするため、1件のご意見を19項目に分けて、以下に其々回答しています。

- ①「独自の項目も多少盛り込まれているもののニセコ町で独自で作る意味が分からない。」について  
→ 本町は、計画の有効性を高めるため、本町の原子力防災専門委員会での議論の結果を受け、策定時点で考えられる必要な項目・文言を追加しました。今後は、町の原子力防災訓練で得られた知見や原子力規制委員会の災害対策指針の改定など新たな知見を受けて、計画を改正していく予定です。
- ②「専門委員会の議事録を見ても、それらの意見については今後作られる避難計画に盛り込まれると書いてある。意見を述べても避難計画に盛り込まれると言われているのに、この基本計画の内容について意見を述べると言われても仕方がないと思う。」について  
→ 本町の原子力専門委員会では町民公募2名の委員、町内有識者として自治会長1名・建設業協会長に参加頂き、積極的な意見を受けていますが、より多くの方から多様なご意見を頂くため、今回ご意見を募集いたしました。
- ③「専門委員会で出た意見を重視して、ちゃんとした避難計画を作って欲しい。」について  
→ 本町では、原子力防災計画の各編の策定に係わる調査検討を原子力防災専門委員会(公開)で実施することとしており、この専門委員会での議論の結果や町民のみなさまの意見を重視して、原子力防災計画編を策定しました。今後本格的に調査検討していく避難計画である「退避等措置計画編」も同様の過程で実施します。
- ④「ただ、1月に道の修正計画が示されているのだから基本計画はもっと早く策定できなかったのか疑問。基本計画が道計画・指針・マニュアルの踏襲だったならば基本計画のみはもっと早く国の期限内の3月18日までに策定できたのではないか。」について  
→ 本町では、原子力防災専門委員会、原子力防災講演会、町民の皆様へのご意見募集の実施など住民参加と情報共有のもとで、基本計画である「原子力防災計画編」を検討し、平成25年3月28日に策定となりました。なお、基本計画である「原子力防災計画編」の策定は当初国の期限は3月18日でしたが、年度途中からこの期限は目安となりました。
- ⑤「国や道がやることを網羅しているため、分量が多くなっており住民が何をして良いのか分からない。町住民がやるべきことを抜粋して意見募集するなど配慮が欲しい。」について  
→ 平成25年度の「原子力防災計画編」の修正検討時、「退避等措置計画編」の策定検討時に、町民の皆様に関係ある項目を抜粋した資料を作成の上、ご意見募集を実施します。
- ⑥「計画については、例えば、図3-1-1で北海道の図をそのままニセコ町の計画の図に持ってくるとニセコ町は、どこから連絡が来るのか良く分からない。最低限、ニセコ町を中心とした連絡系統図に直したほうが分かりやすいのではないか。」について  
→ 平成25年度の「原子力防災計画編」の修正時に、修正した連絡系統図を掲載します。
- ⑦「文面については、「町は、～するものとする。」「町は、～努めるものとする。」などと書いてあるが、単純に「～する。」「～努める。」などではダメなのか。読んでいてちょっと違和感があった。書式であるならばそのとおりに書く必要もあるだろうとは思っている。」について  
→ 文体について簡素化するよう心がけましたが、基本としては一般的な計画の文体と同じく作成しました。今後の「原子力防災計画編」の修正検討時、「退避等措置計画編」の策定検討時に改めて簡素化するよう努めます。

⑧「ニセコ町の計画に削除していいものもあるかと思う。ニセコ町にPAZはないのだから、PAZ内の住民の避難に協力するという文言だけでいいと思う。PAZ内の対策について、ニセコ町の計画に載せる必要はない。」について  
→ 本町はPAZ(泊発電所から5km圏目安)でなくUPZ(泊発電所から30km圏目安)ですが、全体の防災対策を関係者が把握し、防災対策の有効性を高めるため、PAZ内の対策の関係部分を掲載しています。

⑨「避難の輸送手段で海上輸送が含まれているが、北海道を脱出しなければいけないほど遠くに逃げる必要があるということなのか、いまいち良く分からない。」について  
→ 計画に避難の輸送手段で海上輸送を規定しているのは、様々な事故や交通状況を想定して記述しています。例えば、大地震が発生した影響を受けて、泊発電所にて大規模事故が発生し、道東へ広域避難する必要性が生じたが、主要道の複数箇所が破損して通行不能、ただし、苫小牧までは避難でき、海上輸送が可能な場合などが考えられます。

⑩「自家用車の使用については、もっと配慮が図られるべきだと思う。渋滞が発生し誰も逃げる事ができずに被爆した事態になると避難にあまり意味がない。これから作成される避難計画に、どのような場合は自家用車で逃げる事が出来ると記載されると思うが、それとともに全町民に対しての意識付けをしないと無制限に自家用車で逃げている人がいるので、そのような意識付けが必要である。」について  
→ 自家用車で自主避難については、一定のルールづくりを本町の原子力防災専門委員会や関係機関との会議を経て規定していきます。

⑪「避難場所は、旅館・ホテルとするとされているが、ニセコ町に立地しているホテルは、市街地から原発に近づくことになる。PAZの住民避難に対応するためという意味か？それとも他の市町村のホテルと協定を結ぶという意味か？」について  
→ 広域避難場所は基本として旅館やホテルとしており、北海道の調整を得て、他の市町村のホテルと協定を結ぶことを考えています。

⑫「仮設住宅が計画に載っているが、UPZ内が含まれているニセコ町でこのような対応をする必要があるのか疑問。長期間避難するという事は大規模な事故が起こる前提だと思うが、ニセコ町に仮設住宅を作っても放射線の影響で危険。もっと離れた地域に計画すべきだと思う。福島は状況は分からないがUPZの近くに仮設住宅が建設されているのか？」について  
→ 福島の事例であれば、放射線量を考慮の上で、UPZ圏内に応急仮設住宅が建設されたことがあります。広域避難先での仮設住宅の建設については、今後の検討項目とします。

⑬「計画では、UPZ外についても対策対象とされているのは評価したい。原子力災害で重要なことは局地的な災害ではないこと。全町の避難が必要であり、時期によって変わってくるが、観光客の避難も必要になってくる。計画では避難は、役場・消防・警察等の誘導によってと読み取れた。しかし、全町避難を考えるとこの人数では足りない。住民の中にも指導的立場の人を養成していく必要があるだろう。そのようなきめ細かい仕組みを作らなければスムーズな避難体制の確立は無理だと思う。昼間避難だったら学校や各施設からの避難するので、避難するのに集合する段階はある程度省けるが、夜間避難となると集合してから避難ということになろう。そのようなことを考えるとやはり仕組みは必要になろう。机上の計画ではなく、うまく機能する仕組みづくりを期待したい。」について  
→ 防災に係わる指導的立場の養成については、自治会や消防団など地域の団体に協力頂きながら防災訓練を実施し、地域の防災対応能力を高め、指導的立場の養成にもつなげていくことを考えています。

⑭「スリーマイル島の原発事故、チェルノブイリ、福島事故など放射線が環境に放出された事故はあるが、どのレベルで避難するべきかは避難計画で示していただきたい。泊は、福島と違って炉型が違うので水素爆発等は起こりにくいと聞いたが、原子力発電所で重大事故があり、復旧見込みがなくメルトダウンなどの事象があり、放射性物質の拡散が疑われる場合は、放射線の濃度の大小に関わらず、事故があった時点で避難を行うべきである。炉型が違うので起こらないと思うが、チェルノブイリ型の爆発事故があった場合も同様であろう。町内の避難場所に逃げると書いてあるが、町内ではなく広域避難と書いてあるように即時広域避難するべきである。」について  
→ 避難や広域避難の基準については、原子力規制委員会の災害対策指針を踏まえた上で、本町の原子力防災専門委員会にて議論して決定します。

⑮「突き詰めて考えれば、いかに泊発電所の状況を早く情報収集して、いかに即時に避難できるかが鍵になる。この防災計画は長く書きすぎて良く分からないのが本音である。」について  
→ 今後、「原子力防災計画編」や「退避等措置計画編」の具体的な行動内容である職員の原子力災害対策マニュアル、住民の避難マニュアルを検討し、策定することを予定しています。このマニュアルの検討時においても、必要な内容を盛り込みつつ簡素となるよう努めます。

⑯「避難のチラシなどを作成して配布するのはいいが、それだけでは住民に対して行う対策は万全ではない。そのマニュアルをどのように活用して避難に生かしていくべきか考えなければお金の無駄づかいになる。全町民に対して防災に関しての意識付けをこれからどう行っていきべきかを考えなければならない。」について  
→ 原子力防災計画の各編、避難マニュアルを活用し、毎年の原子力防災訓練を実施して、防災対策能力の向上や防災意識の啓発につなげたいと考えています。

⑰「情報共有と住民参加で計画を作るのは結構なことであるが、この基本計画だけを公開してもらってもよくわからない。」について  
→ 基本計画である「原子力防災計画編」のたたき台については、本町の第3回原子力防災専門委員会の開催結果資料として、ニセコ町ホームページにて公開しています。また、避難計画である「退避等措置計画編」は一部検討段階であり、明確な記述をしていないため、公開していませんが、適宜情報共有できるよう努めます。この他、地区別説明会の開催を予定しています。

⑱「避難計画を作る前に、放射線シミュレーション結果や広域避難場所想定（北海道での試案は札幌の厚別、白石などあげられている様だが渋滞は大丈夫か？）、避難経路、冬期間の交通状況、道路状況、避難時の交通状況（どのくらいの交通量で渋滞が発生するか）など今まで検討されてきた情報を開示して意見を募集して欲しい。」について  
→ ご意見頂いた内容を参考にして各情報の共有の上で、避難計画である「退避等措置計画編」の作成前に意見募集を実施します。

⑲「最後に、短期間で計画を策定しなければならないし、原子力災害は、いままでの災害と違い広域的となる。専門知識も必要となり、大変だと思うが、早く計画策定を終え情報提供をしてもらいたい。」について  
→ 計画策定の各段階で情報提供を実施します。

様々なご意見を丁寧に記述して頂きありがとうございます。上記の回答の他、計画検討の参考とします。

以上